

日本手話における引用の文法化

木村 晴美*・小藺江 聡**・市田 泰弘*

(国立身体障害者リハビリテーションセンター学院*・東京家政大学**)

はじめに

日本手話には、引用表現を、その本来の目的である会話や独り言、思考内容などの再現のためでなく、特定の文法形式の一部として用いる構文がある。このような構文においては、引用表現は文法化している。引用の文法化に関する先行研究としては、使役構文について記述したものがあある(小藺江・木村・市田 2001;市田 2001)。本論では、日本手話における引用の文法化について、より包括的な記述を試みる。

引用の文法化

引用の文法化は日本手話だけにみられる現象ではない。音声日本語にも、「～という」(伝聞)、「という～」(説明・限定)、「そういう」(＝そのような)、「～とはいえ」(逆接)、「とあって」(理由)、「～って、」(話題)、「～って。」(伝聞)、「なんて」(感嘆)、「～なんて」(軽視)「～とする」(仮定)、「～しようとする」(起動)、「～しようとしなない」(無意志)など、引用を文法化した形式がある。これらの形式においては、引用表現は本来の引用の機能を失い、モダリティやアスペクトの標示に用いられている。日本手話における引用を文法化した形式は、モダリティやアスペクトの標示にとどまらず、使役構文の例にもみられるようにヴォイスの標示や、因果関係の表現にも用いられる。

構文の構成

引用を文法化した構文は、「契機」を表す部分と「帰結」を表す部分から構成され、「契機」はさらに「起点」と「反応」に分けることができる。

起点は、引用部(会話、独白)か、移動・知覚・継続の NMS を伴う動詞句から、反応は、発見の NMS か、反応の独白引用(間投表現、復誦、描写、コメント)からなる。一方、帰結は、接続詞化した引用部が導く節、思考の NMS に続く引用部、間投の NMS か間投表現・コメントのいずれかからなる。

なお、この構文では、通常の引用構文であれば用いられる引用動詞(〈言う〉〈思う〉など)は用いられない。また、ロールシフト(最近の用語では、referential shift)の明示的標識である視線の移動も義務的ではない。

構文の種類

要素の組み合わせは多様であり、構文のバリエーションは非常に多いが、帰結の種類によって、大きく分けて、(a)接続詞化した引用部が導く節、(b)思考の NMS に続

く引用部、(c)間投の NMS、間投表現、コメントの 3つのタイプに分けることができる。(a)は使役や因果関係を表し、(b)はある出来事が実感や考えを導いたことを表す。(c)は、発見、譲歩、感嘆、迷惑、恩恵、他者の意志や感情などの表現となる。

使役・因果関係

(a)には、日本語の使役表現(「～させる」)や受益表現(「くれる／もらう」)にあたる用法があるほか、因果関係を表す用法がある。

- (1) 私 後輩 弁当 作る わかる 弁当 作る 終る-pt3
会話引用 (命令) 接続詞 帰結節

「私は後輩にお弁当を作らせた／作ってもらった」(強制)

- (2) 私 後輩 弁当 作る したい かまわない 弁当 作る 終る-pt3
会話引用 接続詞 帰結節

「私は後輩にお弁当を作らせた」(許可)

- (3) 私 弁当 作る 面倒 後輩 …… わかる 弁当 作る 終る-pt3
独白引用 発見 接続詞 帰結節

「私がお弁当を作るのを面倒くさがっていたら、後輩が作ってくれた」

- (4) 私 後輩 弁当 作る 必要 わかる 弁当 作る 終る-pt3
独白引用 接続詞 帰結節

「私の後輩は、お弁当がいるので作った」

- (5) 私 後輩 弁当 作る 必要 わかる 弁当 作る 終る-pt3
反応引用 接続詞 帰結節

「私の後輩は、お弁当がいるということなので作った」

実感・考え

(b)は、ある出来事が原因やきっかけになって、実感したり考えついたりした場合の表現であり、日本語の「～して～と思う」「～に～と思う」という表現にあたる。

- (6) 風呂 入る 肩までつかる …… 日本 帰る
移動 知覚 思考 思考引用

「風呂に肩までつかってようやく、日本に帰ったのだという実感がわいてきた」

- (7) においがする カレー …… 今日 作る
知覚 反応引用 思考 思考引用

「漂ってきたカレーのにおいに、今日はカレーにしようと思った」

発見、譲歩、感嘆、迷惑、恩恵、他者の意志や感情

(c)には、発見、譲歩、感嘆、迷惑(間接受動)、恩恵(受益)、他者の意志や感情の

表現など、さまざまな用法がある。

- (8) 友人 久しぶり 会う 会う …… 太った ……
移動 発見 反応引用 間投

「久しぶりに友人に会ってみると、ずいぶん太っていた」

- (9) 話す わからない 飽きる
継続 反応引用 間投

「いくら話しても、彼にはわからないんです」

- (10) 私 彼 知らない 思う 話す なんだS わかる なんだB
継続 反応引用 間投

「私は彼が知らないものと思って話したのですが、なんと知っていたんです」

- (11) 私 今度 遠足 ある 楽しみ …… 雨 飽きる 中止
移動 発見 反応引用 間投 コメント

「楽しみにしていた遠足が雨に降られて中止になった」

- (12) 今度 遠足 私 いや …… 雨 よかった
移動 発見 反応引用 間投

「行きたくないと思っていた遠足の日に雨が降ってくれた」

- (13) 友人 (略) 財布 落とす 探す 必要ない 必要ない …… あと 見つける 得意
独白引用 反応引用 間投

「友人は財布を落としたのに探そうとしなかったのですが、なんと見つかったんだそうです」

複合した用例

(c)に現れる用法は、(a)や(b)にも複合的に現れる。(14)は複合的な(a)の例で、他者の感情と因果関係、(15)は複合的な(b)の例で発見と考えの表現である。

- (14) 友人 (略) 食べる おいしい OK 最後 私 食べる
会話引用 接続詞 帰結節

「友人がおいしそうに (ケーキを) 食べているので、私も食べてみた」

- (15) (略) はく ペア …… 太った 意味
知覚 反応引用 思考 思考引用

「太ったのか (Gパンが) 入らなくなっていた」

構文の連続

この構文は、一つの文の中で連続して用いられることも多い。次の例は、(a)と(c)が連続して用いられた例(因果関係と発見)である。

- (16) 私 会社 ヘルメット 必要 わかる 持って行く-pt1 持って行く
 独白引用 接続詞 帰結部 移動
 バッグを開ける ない 気づかなかった ……
 発見 反応引用 間投

「私の会社ではヘルメットが必要なのですが、持って行ったつもりだったのに
バッグを開けてみたら入っていませんでした」

構文の分析

これらの構文の基本的な意味構造は、契機→帰結という因果関係である。しかし、契機と帰結のそれぞれの内容によって、その表す意味は多岐に渡る。

(1)モダリティ：契機で出来事が表され、帰結でその出来事に対する話者の態度が表現されると、モダリティに関わる表現になる。

(2)アスペクト：起点に移動や継続の NMS を伴う場合は、「時間的・空間的に移動して、そこで初めて／継続的な動作の途中でようやく、～を発見する／考えつく」ことを意味し、アスペクトに関わる表現になる。

(3)ヴォイス：契機の引用で、帰結の出来事に直接関与しない人物の意志や感情が表現された場合、項が一つ増えることになり、ヴォイスに関わる表現となる。日本語の使役構文（強制、許可、放任）や受益構文にあたる。

(4)文法範疇の重なり：モダリティ表現のうち、帰結で、契機の出来事に直接関与しない人物の態度が表現された場合は、やはり項が一つ増えることになり、ヴォイスに関わる表現となる（迷惑性の高いものは日本語の間接受動構文にあたり、恩恵性の高いものは受益構文にあたる）。同様に、モダリティ表現のうち、契機の引用が、話者以外の人物の意志や感情を表現している場合は、日本語の「～がる」「～そうだ」のような文法形式と共通する側面をもつ。すなわち、「私はそれがほしい」に対する「彼はそれをほしがっている（?彼はそれがほしい）」や「私はおいしく食べた」に対する「彼はおいしそうに食べた（*彼はおいしく食べた）」といった制約に関わる現象である。日本語では認識者が顕在化していない（「彼がそれをほしがっている〔のを私は見た〕」「彼がおいしそうに食べる〔のを私は見た〕」の〔 〕内は言語化されない）のに対して、手話のこの構文では、認識者の存在が顕在的に表現されている。項が一つ増えているとみることもでき、この現象もヴォイスとつながっていることがわかる。

参考文献

- 小藪江聡・木村晴美・市田泰弘（2001）「日本手話の使役構文」『日本手話学会第 27 回大会予稿集』 pp20-23. 日本手話学会
市田泰弘（2001）「ろう教育は手話を言語として認知できるか」『聾教育の脱構築』金澤貴之編、pp113-141. 明石書店